

ANNOUNCEMENT

センター報

医学情報センターのホームページが全面更新されました

医学情報センターでは、これまでホームページをインターネット上に公開し、各種情報を提供してまいりました。しかしながら、最近では、掲載する情報が増加し、またその種類も多様化してきたため、従来のデザインに対し、利用者の皆様から「目的とする内容にスクロールなしで到達できると便利である」「利用目的が決まっているがどの項目を選択してよいか分からない場合のガイドが必要である」などの意見が寄せられていました。また、インターネット上には公表しない学内向けの内容を掲載することも必要となりました。そのため、センター内や図書委員会での検討を重ね、センターのホームページ上に掲載する内容を項目ごとに整理して、学内向け（イントラネット版）と同窓生を含む学外向け（インターネット版）に分けて提供することになりました。

つきましては、2005年4月より以下のようにURLが変更になりました。電子ジャーナルのリストはイントラネット版の方に移動いたしました。

インターネット版 <http://www.jikei.ac.jp/micer/> ※これまでと同じ

イントラネット版 <http://j-net.jikei.ac.jp/~micer/>

(医学情報センター・総務 内線 71-2121)



Vanderbilt University Medical Center
The Annette and Irwin Eskind Biomedical Library
(米国テネシー州)

も く じ

医学情報センターのホームページ更新……………	1
報告『図書館と電子ジャーナル』……………	2
デジタルプリント・サービスのご案内……………	8
ありがとうございました……………	9
雑誌案内……………	10
新着案内……………	11
お知らせ……………	13

電子ジャーナルの購読費が毎年値上がりしているという状況の中で、図書館は、大学の教育、研究、診療におけるニーズにこたえるために、電子ジャーナルのタイトルをどのように選定し、利用環境を整えることが必要であるかという問題に直面しております。

この問題について考えるため、利用者の皆様と直接ディスカッションする機会としてシンポジウム「図書館と電子ジャーナル」を開催しましたので、概要を報告します。

日 時：2005年3月22日（火）17時30分～18時30分

場 所：大学1号館6階講堂（西新橋）

参 加：35名（医学情報センター員14名を含む）

内 容：

- I．購読雑誌数減少の実状
- II．本学での電子ジャーナルの導入
- III．電子ジャーナル購読に関わる問題点
- IV．電子ジャーナル購読費の値上りへの対応：国内他大学での事例
- V．ディスカッション

Ⅰ．購読雑誌数減少の実状

1. 当館における外国雑誌（プリント版）の購読誌数と購読費

1994年から2003年までの購読誌数と購読費の変遷を表1に示しました。10年間で購読誌数が165誌減少しています。

表1. 当館における外国雑誌（プリント版）の購読誌数と購読費の変遷

	外国雑誌（プリント版）購読誌数	外国雑誌（プリント版）購読費（円）
1994年	605	52,649,000
1995年	615	48,761,000
1996年	576	55,716,000
1997年	571	59,929,000
1998年	455	61,495,000
1999年	444	56,975,000
2000年	453	57,324,000
2001年	467	57,440,000
2002年	443	60,042,000
2003年	440	66,448,000

2. 外国雑誌購読費の値上がりの原因と問題点

表1に示されているとおり購読誌数が減少していますが、これは購読費の値上がりのためです。外国雑誌購読費の値上がりの原因として、次の点が挙げられます。

- ・掲載論文数の増加
- ・発行部数の減少
- ・電子化費用の負担

値上がりと言部数の減少の間では、「購読費の値上がり」→「購読中止」→「発行部数減少」→「購読費の値上がり」という悪循環が生じています。

また、値上がりに関する問題点として、図書館を含む購読者は値上がりに従わざるを得ない状況にあることが挙げられます。

3. 購読費値上がりに対する当館での対応

購読費値上がりにより、購読誌数を削減せざるを得ない状況が続いていることに対し、当館では次の対応をとってきました。

- ・利用調査、アンケート調査による購読タイトルの選定
- ・コア雑誌168誌の選定
- ・電子ジャーナルで利用できるタイトルのプリント版購読中止

コア雑誌とは、当館として購読継続が必要と定められたものですが、このコア雑誌168誌選定の際に、学内の皆様から各種調査について協力をいただきました。

(図書館・総務担当 北川)

II. 本学での電子ジャーナルの導入

1. 電子ジャーナル導入の開始

当館では、1999年1月に電子ジャーナル50誌の利用を開始しました。これら50誌はプリント版購読に電子ジャーナル利用が含まれていたものです。さらに、1999年4月には電子ジャーナル250誌のパッケージであるProQuest Medical Libraryを導入し、その後購読誌数が加えられ、2005年3月現在、2,023誌の購読契約をしています。

表2. 当館における電子ジャーナル購読誌数の変遷

	外国雑誌（プリント版）購読誌数	外電子ジャーナル購読誌数
1999年	444	250
2000年	453	400
2001年	467	890
2002年	443	950
2003年	440	1,880
2004年	403	2,020

2. 電子ジャーナルの契約方法と利用統計

(1) 契約方法

電子ジャーナルの契約方法には、次の3種類があります。

- ・無料型
- ・個別タイトル契約型
- ・パッケージ型

無料型というのは料金を支払わずに利用できたり、プリント版を契約すると電子ジャーナルも利用できるものです。パッケージ型は、複数のタイトルがセットになって提供されているもので、当館で契約している 2,023 誌のほとんどはこれに含まれます。

表 3 に当館で契約しているパッケージの一覧を示しました。パッケージを契約するためには、その出版社のプリント版の雑誌を一定価格以上購読することが条件になっていることがほとんどです。各出版社のプリント版収入の維持という方針により、電子ジャーナルとプリント版両方に対して購読費を支払うという負担が図書館にかかっているのです。

表 3. 当館で契約中の電子ジャーナル・パッケージと 2004 年の利用回数

パッケージ名	収載誌数	利用回数 (2004 年)
BMJ Online Collection	24	(2005 年から購読)
Blackwell Synergy STM Collection	365	5,693
Cell Press	6	2,455
Lippincott Williams and Wilkins (LWW) Fixed 100 + Ovid Biomedical Collection	175	5,464
Oxford University Press (OUP) Collection	150	4,332
ProQuest Health and Medical Complete	627	4,892
SpringerLINK	251	3,072
Wiley InterScience	190	3,340
合 計	1,782	29,248

(2) 利用統計

当館で購読中の電子ジャーナル 2,023 誌のうち、1,985 誌は利用統計が提供されています。残りの 205 誌についても、利用回数を把握する必要があり、その解決策として、電子ジャーナル・リストで各タイトルが選択された回数を集計するための準備を進めています。

利用統計が提供されている 1,985 誌で、2004 年 1 年間の利用回数の上位 10 タイトルは表 4 のとおりです。また、パッケージの利用回数を表 3 に記載しました。

表 4. 2004 年 1 年間の利用回数の多かった電子ジャーナル

順位	誌名	フルテキスト利用回数
1	Journal Biological Chemistry	5,452
2	New England Journal Medicine	4,968
3	Circulation	4,192
4	Proc Natl Acad Sci USA	2,737
5	Journal Neuroscience	2,292
6	Blood	2,161
7	Science	1,952
8	Journal Clinical Oncology	1,744
9	Nature	1,636
10	Journal Immunology	1,560

(図書館・システム計画係 森田、北川)

III. 電子ジャーナル購読に関わる問題点

プリント版の雑誌と比較して、登場して間もない電子ジャーナルは契約条件や将来的な展望がまだ確立されていません。また、現在、海外の出版社は買収・合併の動きが激しいので、現段階の契約条件が買収後にそのまま移行されるかにも不安があります。図書館は出版社が指定した価格、条件で電子ジャーナルを購読するしかないのが現状です。このような不確定な状況のなかで、電子ジャーナルの登場により、情報を保存していく役割は図書館から出版社へ移行しようとしています。

1. 電子ジャーナルの問題点

(1) 手元に残らない

プリント版は購読期間が終了しても現物が残りますが、電子ジャーナルでは一定期間利用する権利を買うだけなので、契約を中止すると図書館には何も残らないものがほとんどです。

(2) 将来のアクセスの保証がない

契約を継続できなくなった場合、料金を支払っていた期間の巻号が利用できるかは明確ではありません。契約終了後は毎年アクセス料金を課金することで契約部分の利用を許可する出版社もありますが、契約終了後も別途その維持費がかかることになります。

(3) ネットワーク環境に依存

ネットワーク障害時にはまったく利用できなくなります。

2. 価格高騰への対策事例

(1) コンソーシアム契約

複数の図書館が集まり団体契約する方法です。ある出版社の電子ジャーナルがまとめてパッケージとして提供される場合がほとんどで、個別に購読するより安価に契約することができます。しかし、パッケージを導入するための条件として、プリント版を一定金額以上購読することが義務づけられていることが多いため、プリント版を中止することができません。またパッケージの中にはほとんど利用のない電子ジャーナルもありますので、「予算を有効に」という方針から外れてしまう面も持っています。

(2) 不買運動

法外な価格への図書館側の抗議行動のひとつに、雑誌の不買運動があります。最近では、米国の名門大学数校が、特定の出版社の電子ジャーナルをパッケージで購読することを中止したというニュースがありました (Owen Dyer. BMJ 2004;328:543)。また、日本でも不買運動の報告があります (殿崎正明. オンライン検索 2003;24 (1-2):1-2)。

(3) オープンアクセス

広義にはインターネット上で電子ジャーナルを無料公開することです。政府が資金援助をしたり、投稿者が費用を負担する方法で運営されています。最近では論文の質も向上して、商業出版社のライバル誌にも対抗できるようになった、との報告がいくつも発表されています。

- ・ Impact Factor の上昇 <http://www.isinet.com/media/presentrep/acropdf/impact-oa-journals.pdf>
- ・ コンピュータ分野での引用はオープンアクセスの雑誌が多い Lawrence S. Nature 2001;411 (6837) :521

(4) 学術情報流通の改革

学術情報の流れ自体を変えようという動きもあります。学術出版の世界に競争と変革をもたらす学術雑誌の高騰を防ぐことを目的とし、1998年に米国の Association Research Library が SPARC という組織を設立しました。主なプロジェクトは①既存の高額誌に代わる高品質・低価格の代替誌出版、②学術出版市場での競争力強化への支援、③新しい学術コミュニティの発達促進、などです（詳しくは、<http://www.arl.org/sparc/>）。

(図書館・利用サービス係 古関)

IV. 電子ジャーナル購読費の値上りへの対応：国内他大学での事例

雑誌価格高騰による購読雑誌の減少や書庫の狭隘化などは本学の図書館のみの問題ではなく、他の大学図書館等でも様々な対策が考えられています。公表されている事例としては、以下のような取り組みがあります。

1. 奈良県立医科大学（2000年）

問題点	対処方法	効果	実施後の問題点
書庫狭隘化 財政逼迫のため の購読誌減少	プリント版中止、オンライン版オンリーの購読へ移行	3.5% 予算削減	<ul style="list-style-type: none"> ・システムからの購読誌の消滅 ・アーカイブの確保 ・プリント版より安価でない場合もある ・プリント版と電子版に内容の違いがある ・ライセンス契約等の複雑さ（サイトライセンス・同時アクセス数等）

2. 昭和薬科大学（2001年）

問題点	対処方法	効果	実施後の問題点
雑誌価格高騰のため の購読誌減少	Elsevier社の雑誌をプリント版1誌のみ残して購読中止、サイエンス・ダイレクト・トランザクション (PayPerView) 導入 (1論文22ドル・図書館負担)	プリント版購読中止により 1,875万円削減	<ul style="list-style-type: none"> ・過剰ダウンロード (利用停止) ・預託金残金不足のための利用停止 ・ダウンロード数増加により雑誌購読より高額になる可能性

3. 東京医科歯科大学（2002年）

問題点	対処方法	効果	実施後の問題点
電子ジャーナル有料化に伴う電子ジャーナルのための新規財源確保	受益者負担（購読必要額を院生・教員などの利用者数で割り、医局や講座の所属人数分の金額を研究費より支払い。4,000円/人。上限金額30万円）	電子ジャーナル購読実現	2005年現在も問題なく継続中。3年目になり、講座に受益者負担の認識が浸透。支払め切を守らない講座等には教授会から注意。

4. 島根大学 (2001 年)

問題点	対処方法	効果	実施後の問題点
外国雑誌の購読中止による学術論文自給率の低下 書庫狭隘化	電子ジャーナル導入 資金提供は①島根大学財務委員会より750万円/年(学術情報基盤整備3年計画)②文部科学省電子ジャーナル導入経費③教室から電子ジャーナル導入費徴収④専門誌は各教室の研究費と図書館雑誌購入費とあわせて購入(研究費89%図書費11%)	論文自給率の上昇	<ul style="list-style-type: none"> ・3年計画終了後の電子ジャーナル購読費の安定的な経費支出体勢の早急な確立 ・コア電子ジャーナル群の設定と総購読費の全面的な全額共通経費化 ・島根医大と大学統合するので利用環境整備の再度の見直し ・電子ジャーナルパッケージの価格上昇

1. 廣井聰・奈良県立医科大学附属図書館購読プリント版外国雑誌におけるオンライン版オンリーの購読への移行．大学図書館研究 2001.3;61:41-53
2. 母良田功．外国雑誌価格高騰への対応．薬学図書館 2004;49 (2) :80-83
3. 石井保志．オンラインジャーナルの自主財源による運営．医学図書館 2002;49 (3) :269-273
4. 加本純夫ほか．島根大学における電子ジャーナルを中心とした学術情報基盤整備計画(2001-2003)．大学図書館研究 2003.8;68:26-36

(図書館・利用サービス係 武山)

図書館職員からの報告に引き続き、ディスカッションの時間がもたれましたが、次のような意見が出されました。

- ・電子ジャーナルはプリント版と異なりモノが残らないが、将来も利用できる保証はあるのか。
- ・複数の大学でこれまで以上に強く出版社に価格交渉をすることは考えられないのか。
- ・電子ジャーナルのコア雑誌タイトルを選定してはどうか。
- ・米国 NIH では助成研究の成果を無料公開することを要請しているが、このような動きが広まる可能性もあるのではないか。
- ・電子ジャーナルのパッケージでは利用されないタイトルの方が多いため、パッケージを購入するか再検討が必要ではないか。

また、電子ジャーナルの利用回数と購読費の話題が中心であったため、次の指摘もありました。

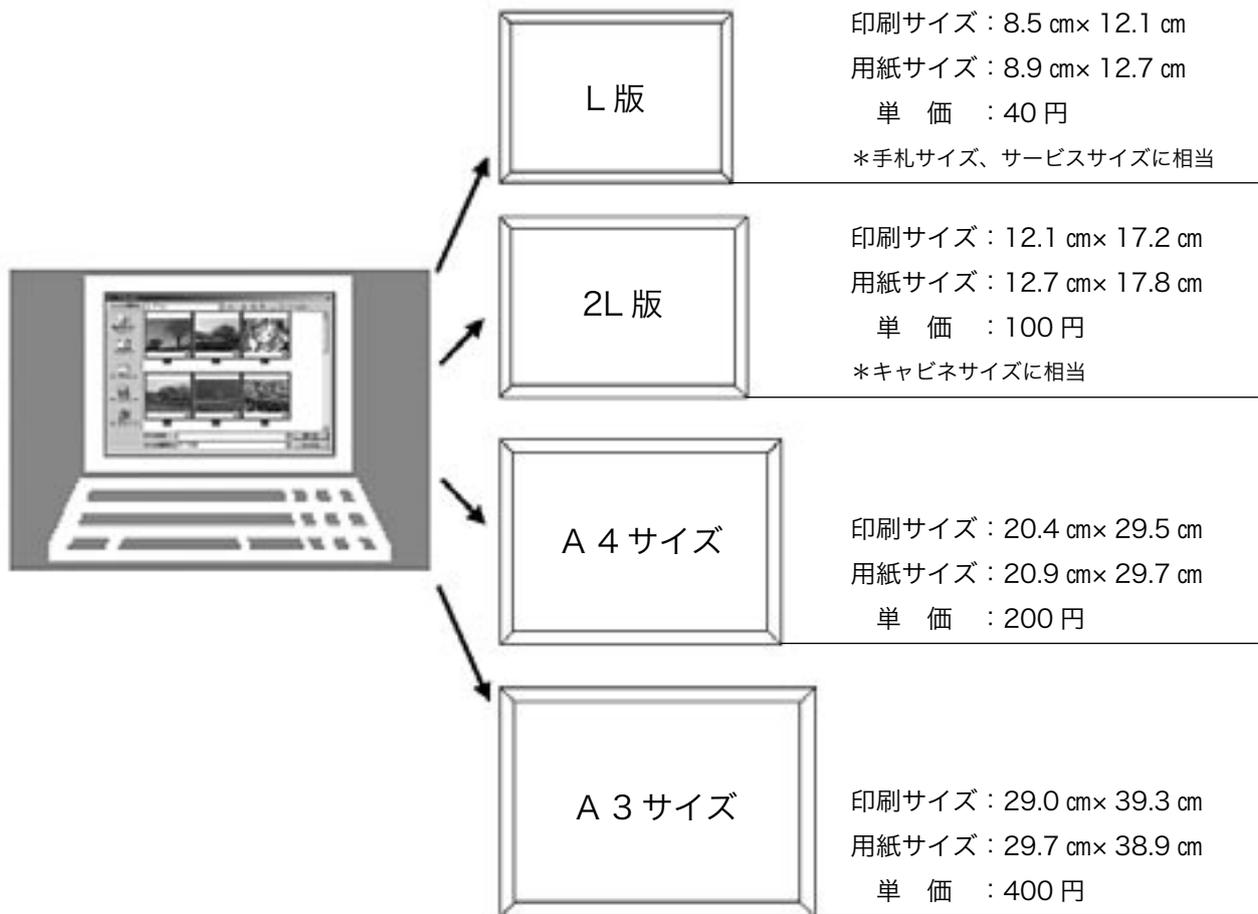
- ・学内で研究者の少ない分野のジャーナルの利用回数は少なくなるので、雑誌の評価は利用回数だけでなく総合的な視点から検討する必要がある。
- ・価格や誌数削減ばかりに目を向けず、大学の教育、研究、診療にとってどのような研究情報が必要かという議論が必要である。

図書館が利用者の皆様からの意見を聞き、対策を練っていく必要を感じさせられました。今後もシンポジウムを開催したり、あるいはほかの形で利用者の皆様と意見交換をする機会を設けることを企画していきますので、ご意見をお寄せいただけましたら幸いです。

(図書館・総務担当 北川 内線：71-2121 電子メール kitagawa@jikei.ac.jp)

デジタルプリント・サービスのご案内

デジタルプリント・サービスは、パソコンの PowerPoint、Photoshop のファイルや、デジタルカメラやイメージスキャナで入力した画像ファイルを高品質にプリントするサービスです。印刷用紙は、L版、2L版、A4、A3の4種類に対応し、論文投稿用写真・図表やポスターの製作に活用できます。印刷サイズ、用紙サイズ、単価は次の通りです。



デジタルプリント・サービスをご依頼の際は、CDもしくはUSBフラッシュメモリにデータを保存し、お持ち込みください。また、プリント可能なファイル形式は、WindowsのPowerPointもしくはPhotoshopで開く形式とさせていただきます。

プリントの仕上がり日は、通常、依頼日の翌々日です。緊急を要する際はご相談ください。また、混雑状況、依頼枚数によって、仕上がり日数が多くかかることがありますのでご了承ください。早めのご依頼をお願いいたします。

(写真室 小久保 内線 71-2124)

＊＊ ありがとうございます ＊＊

図 書 館

著者からの寄贈

医学部看護学科研究委員会		看護学科研究報告書 2004 東京慈恵会医科大学医学部看護学科研究委員会編 東京慈恵会医科大学医学部看護学科研究委員会 2005 43p.	
健康医学センター	和田 高士助教授	家庭医学大全科：ビッグ・ドクター 高久史磨ほか総合監修 法研 2004 3229p.	¥ 7,000
青戸病院外科	吉田 和彦助教授	最新もっともくわしいガンの本 矢沢サイエンスオフィス編 学習研究社 2005 560p.	¥ 3,200
救急医学講座	小川 武希教授	人間工学の百科事典 大久保亮夫ほか編 丸善 2005 692p.	¥ 20,000

史 料 室

一 般 寄 贈

昭和 27 年卒	三浦 長英氏	昭和 27 年卒業記念羽織、袴一式	
昭和 44 年卒	天本宏氏・天本貴氏	呉秀三先生 書簡掛け軸一對	
(株)井筒屋健康管理室長	松岡順之助氏	英国の日本医学への影響－英医 W.Willis と 日本医高木兼寛－	一冊
解剖学講座第 1		中村為男解剖学元教授 扁額	三幅

標 本 館

総務部広報担当 「ブロードキャスター」4月16日(土) TBS テレビ放映ビデオ
※本院の脳血管内治療部(村山雄一診療部長)における最先端のカテーテル治療。

国 領 分 館

著者からの寄贈

法学研究室	村上 義和教授	現代イタリアを知るための44章 明石書店 2005 303p.	¥ 2,000
輸血部	星 順隆教授	一目でわかる輸血 第2版 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2005 88p.	¥ 2,900
	田村 圭司前教授	吉田一穂：究極の詩の構図 笠間書院 2005 423p.	¥ 3,700

**** 雑誌案内 ****

タイトルチェンジ

旧：List of Journals Indexed in Index Medicus 2004年まで
→ 新：List of Journals Indexed for MEDLINE 2005年から

廃刊

Index Medicus 45巻12号(2004年)にて廃刊
Current Contents. Life Sciences [CD-ROM ed.] 2004年にて製造中止

休刊

JAMA 日本語版 26巻3号(2005年)にて休刊
現代医療 36巻12号(2004年)にて休刊

受入中止

Acta Physiologica Scandinavica
182巻4号(2004年)にて購入中止
CMLS: Cellular and Molecular Life Sciences
61巻24号(2004年)にて購入中止
Journal of Occupational & Environmental Medicine
46巻12号(2004年)にて購入中止
Program Proceedings: American Society of Clinical Oncology
23巻(2004年)にて購入中止

** 新着案内 **

図 書 館

新着案内 (和書) (2005. 3. 7~3. 27)

請求記号	書名	著編者	出版者	出版年
QT4/H990e	標準生理学 第6版	小澤澁司ほか編集	医学書院	2005
QV34/Se170/2:1	核酸の合成と分析 (生物薬科学実験講座; 第2巻: 酸; 1)	杉浦幸雄編集	廣川書店	2005
QV34/Se170/6:3	培養細胞の利用 (生物薬科学実験講座; 第6巻: 細胞の増殖と成長因子; 3)	井出利憲ほか編集	廣川書店	2005
QW540/N730	免疫薬理学の原理	F.P. ナイカンブほか編	シュプリンガー・フェアラーク東京	2004
QY4/Ka960/2	Reversed C.P.C. による臨床検査データ読み方トレーニング; 2	熊坂一成ほか編集	日本医事新報社	2005
QY4/Ko750/2005-2006	今日の臨床検査 第9版 2005-2006	桜林郁之介ほか編集主幹	南江堂	2005
WA320/Sa290	子ども虐待の臨床: 医学的診断と対応	坂井聖二ほか編著	南山堂	2005
WB300/Ko750/2004	今日の治療指針: 私はこう治療している 2004年版 (Vol.; 46)	山口徹ほか総編集	医学書院	2004
WB300/Ko750/2005	今日の治療指針: 私はこう治療している 2005年版 (Vol.; 47)	山口徹ほか総編集	医学書院	2005
WB354/U480	安全・確実に行うための最新注射・輸液マニュアル	上谷いつ子ほか編著	日本看護協会出版会	2005
WD205.5/E780	ファブリー病: 基礎から臨床までの最近の知見	衛藤義勝総監修	コメディカルエディター	2004
WE810/H380	肩診療マニュアル 第3版	橋本淳ほか著	医歯薬出版	2004
WE880/F570a	足診療マニュアル 第2版	藤井英夫ほか著	医歯薬出版	2004
WF100/A490/2005	Annual Review 呼吸器 2005	工藤翔二ほか編集	中外医学社	2005
WF141/N370	実践! 呼吸機能検査: 理論・測定・法規	中村雅夫ほか著	真興交易(株)医書出版部	2005
WG100/A490/2005	Annual Review 循環器 2005	杉本恒明ほか編集	中外医学社	2005
WG141/Y440	ナース・研修医のための心電図が好きになる!	山下武志著	南江堂	2004
WG340/N770d (参考4)	高血圧治療ガイドライン 2004年版	日本高血圧学会高血圧治療ガイドライン作成委員会編	日本高血圧学会	2004
WG340/Sh360	高血圧を探る (シミュレーション内科)	島田和幸編著	永井書店	2004
WG595/Y480	臨床のための頸動脈エコー測定法	山崎義光ほか編	日本医事新報社	2005
WH100/A490/2005	Annual Review 血液 2005	高久史磨ほか編集	中外医学社	2005
WI100/A490/2005	Annual Review 消化器 2005	戸田剛太郎ほか編集	中外医学社	2005
WI100/Sh9610/97	肝細胞癌治療の最近の進歩 (消化器病セミナー; 97)	工藤正俊編集	へるす出版	2004
WI300/Sh430a	内視鏡的胃瘻造設術: 手技から在宅管理まで改訂第2版	嶋尾仁編著	永井書店	2005
WJ300/A491/2005	Annual Review 腎臓 2005	伊藤克己ほか編集	中外医学社	2005
WJ300/I270/2005-2007	腎疾患・透析最新の治療 2005-2007	飯野靖彦ほか編	南江堂	2005
WK100/A490/2005	Annual Review 内分泌, 代謝 2005	金澤康徳ほか編集	中外医学社	2005
WK819/B120.1	フードガイドピラミッドによる糖尿病の食事指導マニュアル 2版	馬場茂明編著	医歯薬出版	2004
WL100/A490/2005	Annual Review 神経 2005	柳澤信男ほか編	中外医学社	2005
WM100/Ma880.1/3	老年期の幻覚妄想: 老年期精神科疾患の治療論 (新世紀の精神科治療; 3)	松下正明編集	中山書店	2005
WM100/Sh910/10	初期分裂病: 分裂病の顕在発症予防をめざして (思春期青年期ケース研究; 10)	中安信夫, 村上靖彦責任編集	岩崎学術出版社	2004
WP815/Ku780	乳腺画像・病理アトラス: マンモグラフィ読影に必要な	黒住昌史著	学際企画	2004
WQ205/N770	エンブリオロジストのための ART 必須ラボマニュアル	日本臨床エンブリオロジスト研究会編	医歯薬出版	2005

請求記号	書名	著編者	出版者	出版年
WR100/H5401/2005-06	皮膚疾患最新の治療 2005-2006	瀧川雅浩ほか編集	南江堂	2005
WR140/Ta780a	皮膚免疫ハンドブック 改訂 2 版	玉置邦彦ほか編著	中外医学社	2005
WS280/Su730	小児の肺炎	砂川慶介ほか編	医薬ジャーナル社	2004
WS430/V870b	乳児の脳性運動障害 第 3 版	Vaclav Vojta 著	医歯薬出版	2004
WV100/J4613/13	耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の外傷と異物（耳鼻咽喉科診療プラクティス；13）	岸本誠司ほか編集	文光堂	2004
WV271/Ka160	新生児聴覚スクリーニング：早期発見・早期教育のすべて	加我君孝編	金原出版	2005
WW100/G1908/1	術後眼内炎（眼科プラクティス；1）	大鹿哲郎ほか編集	文光堂	2005
参考 8	広範囲血液・尿化学検査免疫学的検査：その数値をどう読むか 第 6 版；2（日本臨牀；62 巻 増刊号 12）		日本臨牀社	2004
参考 9	国民衛生の動向 2004 年（厚生指針；臨時増刊）	厚生統計協会編	厚生統計協会	2004
2 階閲覧室	Subnote 保健医療論・公衆衛生学 2005 年版 第 28 版	国試対策問題編集委員会編	Medic Media	2004
2 階閲覧室	Data manual：保健医療論・公衆衛生学 2005 年版 第 17 版（Subnote 保健医療論・公衆衛生学；付録）		Medic Media	2004
2 階閲覧室	サブノート・ナビゲーター：保健医療論・公衆衛生学 2005 年版 第 1 版（Subnote 保健医療論・公衆衛生学；付録）	国試対策問題編集委員会編	Medic Media	2004
2 階閲覧室	Question Bank 保健医療論・公衆衛生学 2005 年版 第 21 版	国試対策問題編集委員会編	Medic Media	2004

新着案内（洋書）（2005. 3. 28～4. 3）

請求記号	書名	著編者	出版者	出版年
QS4/G790e	Gray's anatomy : the anatomical basis of clinical practice 39th ed.	editor-in-chief, Susan Standing	Elsevier/Churchill Livingstone	2005
QS504/A490/20	Annual review of cell and developmental biology ; v. 20	editor, James A. Spudich	Annual Reviews	2004
QV38/Sm50	Handbook of forensic drug analysis	editor, Frederick P. Smith	Elsevier	2005
QY50/H510	The laboratory mouse (The handbook of experimental animals)	edited by Hans J. Hedrich et al.	Elsevier Academic Press	2004
QZ200/C151e/1-2	Cancer : principles & practice of oncology 7th ed. ; v. 1-2	edited by Vincent T. DeVita, Jr., et al.	Lippincott Williams & Wilkins	2005
QZ200/P770	UICC manual of clinical oncology 8th ed.	editor, Raphael E. Pollock	John Wiley & Sons	2004
QZ206/1570/85	Betel-quid and areca-nut chewing and some areca-nut-derived nitrosamines (IARC monographs on the evaluation of carcinogenic risks to humans ; v. 85)	WHO	IARC	2004
WA105/A210	Handbook of epidemiology	edited by Wolfgang Aherns et al.	Springer-Verlag	2005
WE810/R570/1-2	The shoulder 3rd ed. ; vol. 1-2	editors Charles A. Rockwood, Jr. et al.	Saunders	2004
WK100/B310a	Principles and practice of endocrinology and metabolism 3rd ed.	editor, Kenneth L. Becker	Lippincott Williams & Wilkins	2001
WO500/D960	Tips and techniques in laparoscopic surgery	Jean-Louis Dulucq	Springer	2005
050/A490/39 (事務室)	Annual review of information science and technology ; v. 39	Martha E. Williams, editor	Learned Information	2005
467/A490/38	Annual review of genetics ; v. 38	editor, Herschel L. Roman	Annual Reviews	2004
参考 5	PDR : physicians' desk reference 2005 59th ed.	J. Paul Folsom, general manager	Medical Economics	2005
参考 12 インターネット	The Medical Library Association encyclopedic guide to searching and finding health information on the Web ; v.1-3	edited by P.F. Anderson et al.	Neal-Schuman Publishers	2004

お 知 ら せ

『今日の診療』がイントラネット（大学ネットワーク）上で利用できるようになりました！

6月1日より、「今日の治療指針」などの情報が検索・閲覧できる『今日の診療（イントラネット版）』が慈恵大学のネットワーク上でご利用になれます。同時アクセス数は当面は2ユーザでの契約ですので、アクセスできないときは少し時間をずらしてご利用ください。

『今日の診療』に収録されている情報は以下の資料と同じデータです。

- (1) 今日の治療指針 2004年版 付録の一部（下記）を除く全頁を収録
口絵、欧文略語[抗がん剤・抗菌薬]、基準値一覧表、新薬、医薬品等安全情報
2004年1月1日発行 総編集：山口徹 北原光夫
- (2) 今日の治療指針 2003年版 口絵・付録を除く全頁を収録
2003年1月1日発行 総編集：多賀須幸男 尾形悦郎 山口徹 北原光夫
- (3) 今日の診断指針 第5版 付録を除く全頁を収録
2002年11月1日発行 総編集：亀山正邦 高久史磨
- (4) 今日の整形外科治療指針 第5版 付録を含む全頁を収録
2004年3月1日発行 編集：二ノ宮節夫 富士川恭輔 越智隆弘 国分正一
- (5) 今日の小児治療指針 第13版 付録を含む全頁を収録
2004年3月25日発行 編集：大関武彦 古川漸 横田俊一郎
- (6) 今日の救急治療指針 付録の一部（付4 基準値一覧）を除く全頁
1996年10月1日発行 総編集：前川和彦 相川直樹
- (7) 臨床検査データブック 2003-2004 付録を除く全頁を収録
2003年3月1日発行 監修：高久史磨 編集：黒川清 春日雅人 北村聖
- (8) 治療薬マニュアル 2004年版 付録を含む全頁を収録
2004年2月1日発行 監修：高久史磨 矢崎義雄

医学情報センターのホームページ（イントラネット版：<http://j-net.jikei.ac.jp/~micer/>）からアクセスになれますので、ぜひご利用ください。何かご不明な点などありましたら、図書館（内線 71-2121 ～ 2125）までご連絡ください。

電子ジャーナルの画面のデザインが変更になりました！

6月1日より、電子ジャーナルの管理(リンク状態や契約条件等)および統計処理の都合から、電子ジャーナルにアクセスするための画面のデザインが変更になりました。新しい画面からは、従来の雑誌名のアルファベット順リストでのアクセスのほかに、雑誌名のキーワードでの検索や提供元からの選択なども可能です。何かご不明な点などありましたら、図書館(内線71-2121～2125)までご連絡ください。



保存図書選定のお願い

図書館では、古い年代の図書が書架に目立つようになったため、解決の一環として、1965年から1980年までに発行された図書を対象に「図書館に残しておいたほうがよい図書(保存図書)」を選定し、それ以外の図書の廃棄を平成14年度より実施してまいりました。

今回は「生化学・薬理学」の図書を対象に以下の日程で選定を行います。

関連ある講座や部署の先生方には文書にて通知いたしますが、それ以外の分野の先生方にも広くご協力いただきますようお願い申し上げます。

期間：平成17年6月1日(水)～6月24日(金)

時間：(月～金)8:00-21:30, (土)8:00-18:30, (日)9:00-16:00

場所：2階閲覧室グループ学習室前 および 書庫2階エレベータ脇

(カウンターでおたずねください)

(内線71-2124 担当 細矢・山田)

各種委員会

・第504回医学情報センター図書館委員会

平成17年4月19日(火)12:15 於E棟会議室(西新橋校)